

一般廃棄物処理基本計画（平成 23 年度～令和 2 年度）に係る目標の達成状況等について

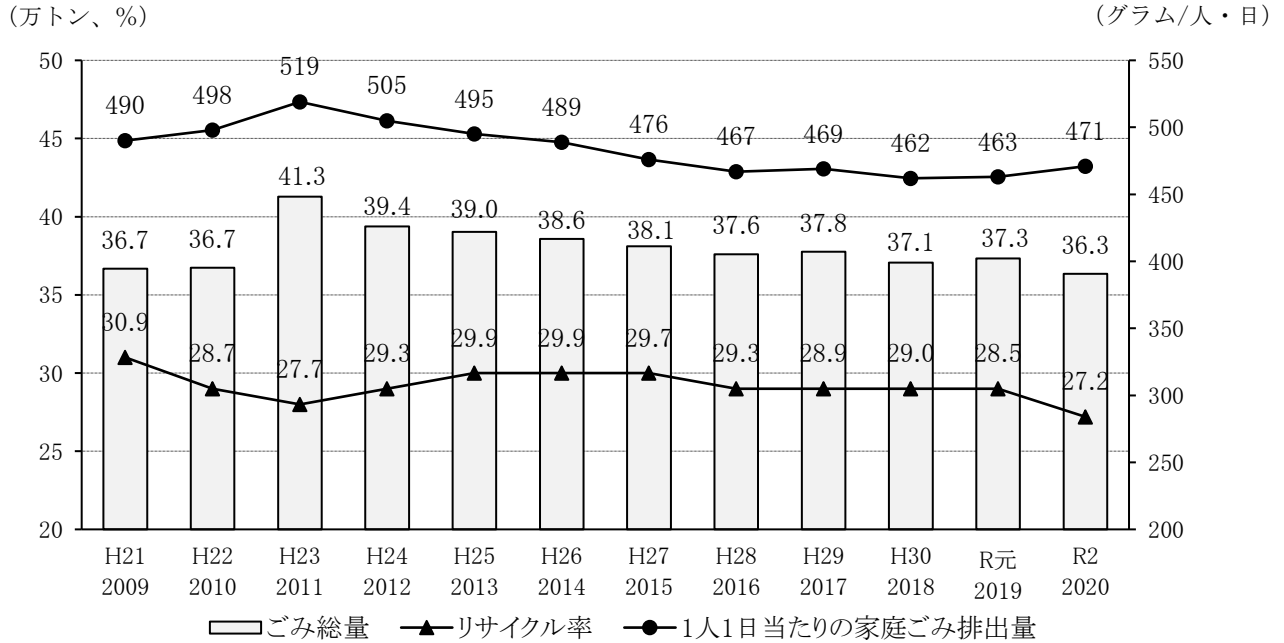
1. 目標の達成状況

(単位:トン)

基本目標	計画目標	平成26年度		令和元年度		令和2年度	
		実績	目標との乖離	実績	目標との乖離	実績	目標との乖離
ごみ総量	360,000	385,863	7.2 %	373,373	3.7 %	363,336	0.9 %
生活ごみ	238,000	242,958	2.1 %	234,235	▲1.6 %	240,647	1.1 %
家庭ごみ	—	191,381	—	184,794	—	188,759	—
缶・びん・ペットボトル等	—	21,143	—	20,621	—	21,906	—
プラスチック製容器包装	—	12,374	—	12,616	—	13,181	—
紙類定期回収	—	14,258	—	11,347	—	11,842	—
粗大ごみ等	—	3,802	—	4,857	—	4,959	—
事業ごみ	122,000	142,905	17.1 %	139,138	14.0 %	122,689	0.6 %
1人1日当たりの家庭ごみ排出量 [g/人・日]	450	489	8.7 %	463	2.9 %	471	4.7 %
リサイクル率[%]	35.0	29.9	▲14.6 %	28.5	▲18.6 %	27.2	▲22.3 %
燃やすごみの量	305,000	333,424	9.3 %	326,017	6.9 %	314,499	3.1 %
推計人口(10月1日現在)	—	1,073,242 人		1,090,263 人		1,097,196 人	

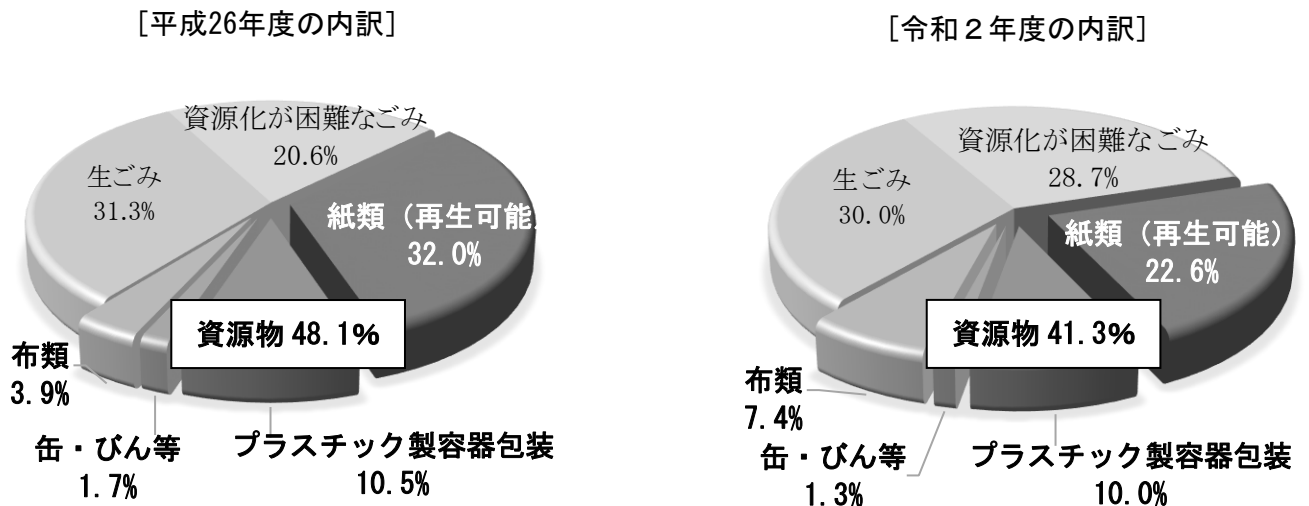
- 令和元年度は、人口の増加が続く中でもごみ減量が順調に進んでおり、概ね目標を達成している。
- ただし、リサイクル率は、インターネットの普及に伴う新聞・雑誌等の紙類の減少や、ペットボトル容器の軽量化、スチール缶・びん類の減少などの影響により目標値との差が大きい。
- 令和2年度は、ごみ総量について目標との乖離が1%未満となったが、これは新型コロナウイルス感染症流行により、外食控えや飲食店の時短営業等で事業ごみが大きく減少したことによるものである。
- 一方、1人1日当たりの家庭ごみ排出量については、在宅時間が増えたことにより増加し、目標との乖離が大きくなっている。

2. ごみ排出量等の推移



- ごみ総量・1人1日当たりの家庭ごみ排出量については、平成23年3月に発生した東日本大震災の影響により一時急増したものの、市民・事業者との協働によるごみ減量・リサイクルの取り組み（ワケアップ！仙台キャンペーン等）により、震災前の水準にまで回復。
- 一方、リサイクル率については、前述のとおり低下傾向。

3. 家庭ごみの組成



※毎月1回、清掃工場において家庭ごみ袋を抽出し開封調査した結果による（数値は年間平均値）

- 家庭ごみにおける資源物の割合は、減少傾向にあるものの、依然として4割以上が混入しており、さらなる分別の徹底が必要。